

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

4

第二幕 第1場

1521年6月初旬 ロヨラ城正面玄関

登場人物： 騎士 イニゴ・デ・ロヨラ
 ロヨラ城城主 ガルシア・デ・ロヨラ（イニゴの兄）
 城主夫人 マグダレーナ・デ・ロヨラ（イニゴの義姉）
 騎士 ホアン（イニゴの友人）
 家令
 出迎えの村人 大勢

城主： イニゴはまだか？昨日わが領地に入ったというのに・・・遅いのう。

城主夫人： 負傷した両足をかばいながら、担架でそっと運ばれてくるので時間がかかるそうです。おお、イニゴ！あまり痛まなければいいのですが。

城主： あのフランスの大軍を相手に、何時間もパンプローナの城を守った末の、名誉の負傷だ。イニゴにとっては本望だろうが、足の傷が心配だ。

城主夫人： イニゴが倒れて間もなく、城兵たちはフランス軍に降伏したそうですね？

城主： 兵力の差から見て、仕方なかったろうが、イニゴとしてはさぞ無念だったろう。

城主夫人： 命が助かっただけでも感謝しなければなりませんわ。

執事： イニゴ様が内堀の橋のたもとにおつきになりました。村人たちが大勢出迎えて、大喜びでイニゴ様の担架を囲み、なかなか離しません。

城主： 城門をいっばいに開き 早くイニゴを迎え入れよ。

（ややあって、イニゴが担架に運ばれて館の玄関に近づいてくる）

執事： イニゴ様のお着きです。

城主： おお やっと来たか！ イニゴ、お帰り！！

イニゴ： 兄上、ただいま帰りました。こんな無様な格好で 面目ありません。

城主： 名誉の負傷だよ、イニゴ、よくやった。一門の誉れだ！

城主夫人： イニゴ、お帰りなさい！まあ、包帯でぐるぐる巻きにされて！傷は痛みませんか？

イニゴ： カタリナ姉さん、只今。ご心配をおかけしました。痛みなど「なんのこれしき。」です。キズのあることさえ、キズかないほどです。

城主： その下手な洒落が 玉にキズ（瑕）なんだ。

城主夫人： 玄関でそんなこと言っていないで、中に入りましょう。2階の南側のお部屋を、あなたの病室として準備しているのですよ。その前に、皆でお御堂に行って感謝の祈りをしましょう。イニゴが帰ってきたのですもの。

イニゴ： ありがとうございます。ああ、やっぱり家はいいなあ。

城主： （担架を運んできた兵士 及びつき添いの騎士に向かって）皆さん、弟のために遠路はるばる有難うございました。今夜はゆっくり休んでいってください。

イニゴ： 兄さん、友人のホアン君です。パンプローナからずっと付き添ってきてくれました。

ホアン： 初めまして。イニゴ君に鼓舞されてパンプローナで戦いました。いつもイニゴ君の勇気に励まされています。

城主： 弟が世話になりました。ありがとう。何日でも泊まっていってください。良いブドウ酒もありますよ。そして、パンプローナでの武勇伝を聞かせてください。

イニゴ： その話はよしましょう。もう一つ病気が増えてしまうから。

城主： どんな病気だ？

イニゴ： 「肺尖カタル」（敗戦語る）

【黒い使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ 見栄っ張り 故郷へ錦を飾るとは
こんなものではないはずだ どうだ担架の乗り心地？

【白衣の天使の合唱】

♪ああイニゴ ふるさとの城 なれを迎え 喜び合えり
されどここは 終わりにあらず 新たなる はじめとならむ